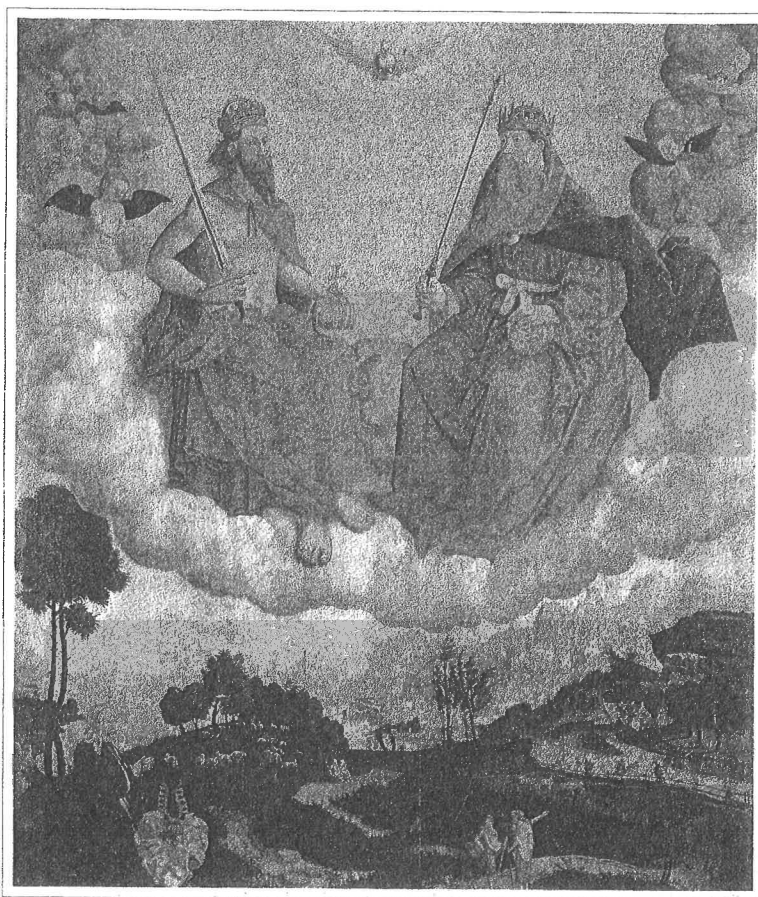


2010年(平成22)5月

カルメル
霊性センターニュース



三位一体 キルメル, M. レーゲンスブルグ、市立美術館蔵

5月

254号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——



第十七章 修道生活

2 邪欲を抑える

修道服と剃髪は、大して役に立たない。真の修道者をつくるのは、生活を根本的に改めることと、邪欲をまったく抑えることである。そのなかで、神と自分の救い以外の何かを求めようとすれば、患難と苦しみ以外、何も見いだせないであろう。また、皆のなかで小さくなり、従っていこうと努めない人は、長く平和に生活することはできないであろう。

3 苦しみの道

あなたが修道生活に入ったのは、命令するためではなく奉仕するためである。あなたは、怠けておしゃべりするためではなく、苦しみ、そして働くために召されたということを思い起こしなさい。そこでは、炉の中の黄金のように人間が試される（シラ 27・5 参照）。神への愛のために、心の底からへりくだらうと望まない人は、誰一人そこで生活し続けることができない。

心の泉



聖霊が

わたしたちの内に

臨在されるのを信じてください。

聖霊は「考え」ではありません。

わたしたちの 魂のいのち

いのちを与える息吹です。



—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

新緑の頃となりました。そっと通り過ぎていくさわやかな風はイエスの言葉を思い起こさせます、「風は思いのままに吹く、あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くか知らない」ヨハネ3・8。
わたしたちにとって「いのちを与える息吹」聖霊を聖霊降臨の祝日を待つ日々願い求めたいものです。

聖霊降臨の時のように外的しるしでご自分の存在を示されないまでも、少なくともわたしたちのうちに住まわれていること、すなわち彼ご自身への信仰を与えてくださるよう願ひましょう。主が言われるように（ヨハネ4・14）、聖霊を信じるものはその人のうちから生きた水が川となって流れ出るようになり、この人を通して聖霊は広がっていきます。

いのちと光は聖霊によって流れ出ますが、源である神の水門が開かれるのはわたしたちの信仰によってだけです。*

どんなに忙しい、あるいは自分のしていることが無意味と思われる日々であっても、「いのちの源である神」の水門を開いて、「いのちと光」を全世界の隅々まで注ぐなら、なんと有意義な一日となることでしょう。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『神と親しく生きる いのりの道』
聖母の騎士社、2009

四馬

九里 彰

現代はこの世の生を謳歌することに多くの人々の関心が向き、人生のネガティブな側面、生老病死、特に死をできる限り見ないようにしているのではないだろうか。だが、死は必ずだれにでも訪れる。それもいつどこで起こるかだれも知らない。それゆえ、死から目をそらすことは、死すべき人間である私たちが、この世において本当の意味で生きることを、かえって阻害しているのではないだろうか。

お釈迦様の四馬のたとえは、私たちが死を一般にどのように受け止めているかを、四種類の馬にたとえている。

第一は、御者が振り上げた鞭の影を見ただけで走り出す馬。

第二は、鞭が毛の先に触れてから走り出す馬。

第三は、肉に触ってから走り出す馬。

第四は、骨身に徹しないと走り出さない馬。

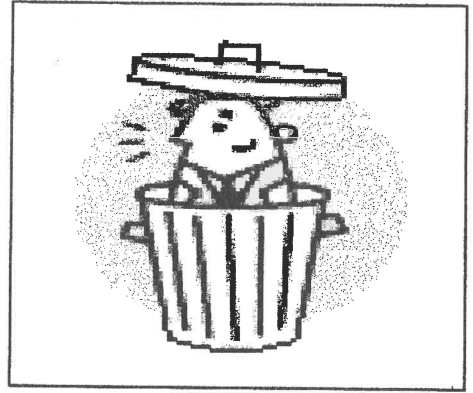
第一は、遠い町や村でだれかが亡くなったと聞くと、うかうかしてられないと立ち上がる人。第二は、自分の町や村でだれかが亡くなったと聞くと、他人事ではないと立ち上がる人。第三は、自分の親兄弟が亡くなった時、次は自分の番かと立ち上がる人。第四は、自分自身にお迎えが来た時、ようやく立ち上がる人。

キリストも、愚かな金持ちのたとえを使って私たちに警告されている。倉に納めきれないほどの豊作を前に、金持ちは思案する。そしてこうつぶやく。

こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから何年も生きていくだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」と。しかし、神は言われた、「愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。…」(ルカ 12 : 18-20)。

人の死は、私たちの命が自分の所有物ではなく、神からのプレゼント、無償でいただいたものであり、自分勝手にはできないものであることを教えてくれている。私たち一人ひとりが与えられた尊い命を無駄にすることなく、それぞれ置かれている場で、神への感謝の内に一瞬一瞬を精一杯生き、「世の光」「地の塩」となっていくことができるよう、上からの力、聖霊の助けを心より乞い願う。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (132)



傷ついた葦を折らないこと

ある人たちは、物が少しこわれると、すぐ捨てる傾向があります。それを直す代わりに、「ああ、修理する時間がない。それはゴミ箱に捨てて、新しい物を買った方がいい」と言います。しばしば私たちは、それと同じように人々を取り扱っています。「なるほど、彼は飲酒の問題を抱えている。そう、彼女はひどい鬱だ。ああ、彼らは仕事に失敗したそうだから彼らと関わりを持たない方がいい」と言うのです。彼らが明らかに傷を負っているからといって、すぐに彼らを私たちの心の中から追い出してしまえば、しばしば彼らの傷の中に埋もれている贈り物を無視することになり、それによって、彼らの命の成長を妨げてしまうのです。

私たちは皆、傷ついた葦なのです。その傷が見えるものであろうとなかろうと…。思いやりのある人生とは、力は弱さの中に隠されており、真の共同体は弱い者たちの友情の絆であることを信じる人生なのです。

(0317)

イエスは慈しみ深い

神の子イエスは、慈しみ深い方です。慈しみを示すことは、憐れむこととは違います。憐れむことは、その人との距離や、見下げることさえも暗示しています。乞食がお金を乞い、あなたが憐れみからいくらのお金をあげたとしても、それは慈しみを示したことはありません。慈しみは、共に苦しむ心から生じます。つまり、相手と同じ者になろうとする望みから生じるのです。イエスは、私たちを見下げようとはしませんでした。彼は、私たちの一人となり、私たちと共にいて、その苦しみを深く感じ取りたかったのです。

ナインのやもめの独り息子をよみがえらせた時、悲嘆にくれる母親の深い悲しみを、イエスは自分自身の心の中で感じ取ったのです(ルカ 7: 11-17)。私たちが、私たちの兄弟姉妹に対して、どのように慈しみを示すべきか知りたいならば、イエスを見つめることにしましょう。

(0528)

(九里 彰訳)

復活節第五主日C ヨハネ 13, 31-33a. 34-35

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 13, 34)。

今日の福音の箇所は、受難の前夜、最後の晩餐でのイエスの言葉から取られています。十字架の死、それは、イエスの愛がどこまで徹底したものであったのかを、証しています。「死に至るまで、それも十字架の死に至るまで」(フィリ 2, 8)、「世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた」(ヨハネ 13, 1)。イエスの愛は、無償の愛、いかなる見返りをも期待しない愛、無視され、忘却されたとしても後悔しない愛。復讐心、怒り、憎しみに決して変質しない愛です。実に、神の「栄光」とは、権勢と威光に満ちたものであると言う以前に、このような愛の重み、どのような反対勢力をも跳ね返す力強さそのものなのではないでしょうか。イエスが、このような愛の徹底化としての十字架の死を受容し、また、父である神は、そのイエスを御自分の生き写しとして承認した、それで、イエスを復活させたのです。御父と御子の愛における同質さ、一致がなかったとしたら、復活もまたなかったことでしょう。「神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる」。御子の十字架の死の受容、献身と御父からの御子を復活させ栄光の中へと高揚させることとは、表裏一体なのです。

「わたしが行く所にあなたたちは来ることができない」と御子が言われる、その所とは、栄光の中での御父との一致のことです。そこに至る道はイエスのように愛することです、しかし、人間は、いかに努力して愛に生きようとしても、イエスのような愛に生きることは不可能です、どこまでも、罪の何かがわたしたちの愛を汚染してしまっているのですから。高く上れば上るほど、独善的になるのではないのでしょうか。でも、イエスは、このようなわたしたち罪人を贖い出すために、聖霊を注ぎ新しい人として生きる可能性を開くために、十字架に上られたのではありませんか。わたしたちの道は、自分の努力にと言うよりは、イエスの十字架の死と復活を信じ、その愛に罪を洗われ、赦され続けて行く、恵みに信頼する以外にはないのです。その道は、十字架を通して復活に至る道、イエスの弟子になりきって行く道でもあるのです。「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」。

ルカ 渡辺幹夫

復活節第6主日

“わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る” (ヨハネ 14:23-29)

今日の福音では、イエスの弟子たちに共通した特別の印である“愛”が強調されています。この愛は単なる言葉ではなく、行動へと突き進んで行くものです。“わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る” (ヨハネ 14:23) とイエスが言われたのはこのためです。

神の言葉に対して従順であること、これは愛に欠かせない要素です。イエスは御父のご命令に従ってこの世に来られました。このイエスの従順は自由を奪われた奴隷的なものではなく、御父のみ旨を行うための自由な選びでした。イエスは御父の愛を経験しそれが真の、絶対的なものであることをよくご存知でした。御父がイエスに願われることはいつも最上、最善のことでしたから、イエスは御父に従うことしかお出来になりませんでした。事実、愛は愛する者同士が自分のためではなく、相手のために、善や益を探そう促します。愛によって促される行動は自己中心の悪であるわけがありません。ですから従順には嘆きや悲しみとは無縁の、喜びと神から来る心の高まりがある筈です。

愛である神は神の言葉のうちに私たちに対する神の思い、意志を表して来られました。神を愛する人なら必ず神の言葉に従いこれを守るでしょう。“幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である” (ルカ 11:28)。神の言葉は神の啓示です。神は私たち人間をご自分の友としてこれを知らせてくださいます(ヨハネ 15:14-15)。“神の言葉は生きていて力があつ、両刃の剣よりも鋭いのです” (ヘブライ人への手紙 4:12)。イエスのご自分の言葉に従うよう熱心に説き、神の国に入るのは、“主よ、主よ”と神の名を呼ぶ者ではなく、神のみ旨を行う人であると仰います。イエスは続けて、イエスの母、兄弟、姉妹とは、神の言葉を聞いて行う人たちのことである (ルカ 8:21) と断言なさいます。

福音書は愛の本質的なしるしを言葉で記しています。イエスは仰います。“わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。父はわたしよりも偉大な方だからである” (ヨハネ 14:28)。もしイエスの弟子たちが真実に心からイエスを愛していたなら、彼らは自分自身の慰めよりも、イエスのより大きな善と栄光を当然求めたでしょう。普通の生活環境においても、愛する者は相手の必要を察知しそれを満たそうとします。もし私たちが本当に一人の人を愛するなら、その人が必要としていることを言葉で聞く前に気づき、実行します。こうして愛は強められ、深められて行きます。

愛によって彩られた生活は私たちの生活を明るくし、またまわりの人々の生活をも照らします。そのような生活は、苦しみの時に力を与え、その苦しみの意味を教えます。イエスの存在がエルサレムの町の光であるように、私たちの心にあるイエスの愛が、私たちの生活を常に照らす光となり、また周りの人々の生活をも照らすものとなりますように。

(Sr. Paulina)

主の昇天C ルカ 24, 46-53

「イエスは、・・・手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた」(ルカ 24, 50-51)。

このように、神の御子であり、マリアの御子であるイエスの身体を持った昇天について簡潔に福音書は語っています。祝福しながら上げられたイエスの手、そこに弟子たちは、何を見たのでしょうか。十字架の釘の跡を見たはずです。受難の夜、自分たちが呪ってまでも知らないと否定して見捨てたイエスの苦しみ、傷跡を、言ってみれば、それは、自分たちの裏切りと逃亡の罪の傷跡でもあるのですが、その手を見たのです。イエスはその手を上げる、それは、弟子たちに、そして、わたしたちすべての人間に、自分たちの罪を思い出させるためではなく、祝福するため、罪を赦し、罪の重荷から解放する祝福を与えるためなのです。

「そして、天に上げられた」。どのようにして天に上げられたのでしょうか、その実況報告のようなことは、聖書にはなにも書かれていませんし、わたしたちも知る必要もないことです。唯一つ、はっきりしていることは、究極の方、父である神によって御自分の栄光のうちに人間、苦しみ死を体験したイエスは上げられた、苦しみと死を脱ぎ去ってではなく、十字架の死によって贖われた苦しみや死を引き連れて神の栄光の中にあげられた、このことなのです。イエスは、十字架の死と苦しみを後に残してではなく、十字架の死と苦しみを身に帯びた方として神の生命の中に受け入れられたのです。父なる神の生命の中に、イエスは、罪がもたらした死、苦しみを持ち込んだ、と言えるのです。罪がもたらした死、苦しみは、神の生命と相容れないものと見るのが、人間の常識かもしれませんが、しかし、これは、イエス御一人のみができたことですが、この人間の常識を乗り越えるのです。ここに、まったく新しい神の命の姿が開示されてきます。痛み、苦しみとは無縁な永遠の静けさ、安息の中に孤高に住まう姿、そこに神の真実な姿があるのではなく、イエスを通して痛み、苦しみ、死をも受け入れるところに、神の深層があるのです。「その御子をさえ惜しまず死に渡された」(ローマ8, 32)ほどの愛、痛む愛、この愛の神の根底を啓示する、これが、御昇天の秘儀ではないでしょうか。昇天は、復活の付録に尽きるものではないのです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」(ヨハネ3, 16)。独り子の受肉が神の愛の深さであったように、また、昇天は、その愛の啓示を完結するものではないでしょうか。

ルカ渡辺幹夫

聖霊降臨の祭日

「聖霊を受けなさい」(ヨハネ20・19～23)

私たちは、復活の祭日のあと、1年で最も大切な日である聖霊降臨(ペンテコステ)の祭日を迎えます:この二つの復活の祭日と聖霊降臨の祭日は深く結びついています。私たちは、本日の聖霊降臨の祭日で1年の典礼でもっとも重要なときである復活節を終えます。この7週間を通して、私たちは自分たちの信仰の中心にあるもの、即ちイエスの復活を祝ってきました。

もとはペンテコステはユダヤ教の祭日でした。ユダヤ人にとっても過ぎ越しの祭りの後の最も大切な祭日でした。私たちはその名前を保っています、すなわち「ペンテコステ」という言葉は50番目という意味で、ユダヤ人にとっては過ぎ越しの後50日目、私たちキリスト者にとっては復活祭後50日目となります。私たちは、ある点でその意味も保っています。神はそのすばらしいご計画において、ユダヤ人がペンテコステの日を祝うのは、私たちキリスト者が私たち自身のペンテコステを祝うできごとのかたどり、或いはシンボルであるということを示されました。

私たちは契約の始まり、すなわち神と全人類との間の契約を祝います。この契約は十字架上でイエス様によって、ご自身の血でサインされていましたが、この日使徒たちの上に聖霊がくださったことで有効となりました。「聖霊を受けなさい」(ヨハネ20・23)ということばにより使徒たちにそれを伝えたとき、イエス様の地上での全生涯や、ナザレにおける隠れた生活や、彼の説教、お苦しみと死は悲痛な、そして寛大な種蒔きだったのでした。どんな農夫もイエス様ほど多くの愛と汗を種蒔きに注ぎ入れた者はいません。イエス様の目的は彼の子供たちのために霊と霊がもたらす全ての贈り物の豊かな収穫を集めることでした。

霊がいったん私たちの心をとらえると、神と私たちとの間に自分がのぞむだけの激しさで絶え間ない神的生命が流れ続けます。木の幹と枝の間に起こる樹液の流れに譬えたのはイエス様でした、イエス様は幹で私たちは枝です(ヨハネ15・1～6)。罪のゆるし、内的平和と喜びは、霊がもたらす貴重な贈り物です。しかし、私たちが共同体の中で一致を保たなければ、全てのイエス様の愛はむだに終わります。共同体の中に不和の種を育てる人は聖霊に全く反しているのです。聖パウロの次ぎのことばをききましょう:「わたしたちは『霊』の導きに従って、生きていくとするならば、また、『霊』の導きに従って前進しましょう」。

(Sr. Paulina)

三位一体の主日C ヨハネ 16, 12-15

「父の持つておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、その方がわたしのものと受けて、あなたがたに告げるといったのである」(ヨハネ 16, 15)。

この句は、すべての源泉である御父が「持つておられるものすべて」を御子に譲与される動きから始まり、御子に受け取られたものが御霊に譲渡される、また、聖霊は御子に栄光を与え、こうして御子は御父の栄光を現す、この円環運動を表明しています。その一方で、聖霊によってわたしたちがその円環の中に参入する可能性が開かれる神秘をも告げています。

今日の福音は、イエスの御言葉、「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない」で始まっていました。イエスが言っておきたいと心から願われたこと、むしろ、これを言うために御父から派遣されて世に来られた、そして、わたしたち人間が自分の能力では把握しきれないこと、真理の霊に導かれてはじめて悟ることができること、それはどんなことなのでしょう、上述した「御父が持つておられるもの」とも関連するようなのですが。この問いには聖書のみが答えることができます。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」(ヨハネ 3, 16)、御父のみが始めてくださった救いの計画の愛の重みが、現実の世を支え、完成に導いている、わたしたちが受ける印象ではそうでなくとも、イエスが語りつくしたいものは、これではなかったでしょうか。御父は、この愛を人々に語ることを、御子のゆだねられたのです。御子は、十字架の死、復活の過ぎ越し秘儀で、御父のゆだねた使命を忠実に実現化されました。

この御父の愛は、人間の陳腐な言葉では、言い表わしきれないものであり、「十字架の死」と言う人間の常識には逆行する言葉によってしか、表現しきれなかった深淵です。この「十字架の死の言葉」をわたしたちが把握し、悟り、その中に生きるためには、御父と御子の間の愛の絆、聖霊に導かれることが必須です。そうでなければ、わたしたちは、「十字架の死の言葉」を正しくは把握できず、むしろ、盲目的に誤解に走らされる傾向に傾斜しているのです。わたしたちが、今日の地上の喜び、苦しみに満ちた命を誤解なく真実に生きるには、御父と御子と聖霊の愛の交わり、三位一体の秘儀の中に生かされている自覚を日ごとに深める必要があります。 ルカ 渡辺幹夫

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (36)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

ベナルア・デ・ラスヴィッヤス

ベナルアは、グラナダ州のイスナッジョス県にあるベナルア川沿いにあります。そこにももう一つの宿場、ベナルアの旅籠があります。

グラナダからラ・マンチュエラへ向かって歩いていた十字架のヨハネとマルティン修道士の二人は、ベナルアの宿場に着きます。その時、宿から、「喧嘩し、刀で切りつけ合っている二人の男が飛び出してきました。その内の一人は、手に傷を負っていました」。

マルティン修道士は、こう話を続けます。「くだんの聖人は彼らのそばに近づくと、彼らにこう言いました。『我らの主イエスキリストの功德により、もう喧嘩をしないよう、あなた方に命じます』。そして手に持っていた帽子を、二人の間に投げると、それだけで喧嘩はやみ、二人は互いに見つめ合っていました。

この証人にとってマルティン修道士はこう付け加えています―それは、神が聖人を通して行なった奇跡のように思えました。そしてその宿に居合わせた多くの人々にとっても同じように思えたのです。なぜなら人々はその前に二度、彼らを仲直りさせようとし、すべて無駄だったからです。

聖人はロバから降り、彼らの間に友情を結ばせ、互いに足にまで接吻させ合いました。証人は、これらのことを目撃しました」。



…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

22. 十字架の聖テレジア・ベネディクタ(エディット・シュタイン) (1891-1942) — その4

エディット・シュタインは、1891年10月12日、ドイツ・ブレスラウの敬虔なユダヤ人家庭に、11人兄弟の末娘として生まれた。この日は、その年のユダヤ教の暦では、「贖罪の日」に当たっていた。10代の頃に無神論者となったが、学業優秀であった彼女は、著名なフツサールのもとで哲学を学び、現象学を研究、博士論文は『感情移入の問題について』であった。1921年、友人宅でたまたま手に取ったアビラの聖テレジアの『自叙伝』を一晩で読破、これこそが真理であると確信し、1922年1月1日、カトリック教会で受洗。1933年10月14日、ケルン・カルメル会に入会し、「十字架のテレジア・ベネディクタ(十字架に祝されたテレジア)」という修道名を受ける。後に彼女は語っている。「十字架ということ、私は当時誰の目にも明らかになりつつあった神の民の運命として理解しました。キリストの十字架の意味を知っている者は、すべての人々の名において、その十字架を担わなければならないのだと考えたのです。」

ユダヤ人迫害激化のため、オランダのエヒト・カルメル会に移るが——彼女は、姉妹たちを危険に陥れたくなかったのである——、カトリックの洗礼を受けていた姉のローザとともに逮捕された。真の平和のためのいけにえとして、また、イスラエル民族のための犠牲として、自己をイエスの聖心に奉獻し、1942年8月9日にアウシュビッツで殉教者としてその命を捧げた。ユダヤ人移送列車と強制収容所内で Sr.テレジア・ベネディクタを目撃した人々は、彼女が平静であったこと、子供たちの世話をし、平和の雰囲気の人々にもたらしていたことを証言している。

『十字架の学問』をはじめとする数多くの深遠な著作を書き残し、それらは多くの言語に翻訳されている。1987年5月1日列福。1998年10月11日列聖。1999年10月1日、スウェーデンの聖ブリジット、シエナの聖カタリナとともに、ヨーロッパの守護の聖女として宣言される。



十字架の聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)

—— 祈り ——

聖霊降臨のノヴェナより

1942年 聖霊降臨の日のために

あなたはどなたですか。私を満たし、
私の心の闇を照らす、甘美な光よ。
あなたは、母の手のように私を導いてくださいます。
もし、あなたが私から手を離されたら、
私は、次の一步をどうやって踏み出せばよいのか分からないことでしょう。
あなたは、私の存在を抱き、ご自身のうちに私の存在を
うずめてしまう空間です。
あなたは私の存在を、無の深遠から光へと
呼び出してくださいました。
あなたから離れれば、またそこへ沈み込んでしまうでしょう。
私自身よりも私に近く、
私の深奥よりももっと奥におられながら、
つかむことも、触れることもできない、
すべての名に勝るお方：
聖霊 —— 永遠の愛よ！

あなたは、御子のみ心から
私の心へとあふれてくる
天使と祝福されたものらの糧、
甘美なマナではないでしょうか。
死から命へと復活されたお方、
彼は私をも死の眠りから
新しい命へと目覚めさせてくださいました。
彼は日毎に私に新しい命を与えてくださいます。
いつか、彼の満ち満ちた豊かさが私を通してあふれ出すことでしょう。
それは、あなたの命の命 —— 実にあなたご自身なのです：
聖霊 —— 永遠の命よ！

(「聖霊降臨のノヴェナ——七つのきらめき」より抜粋)

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケルトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケルトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

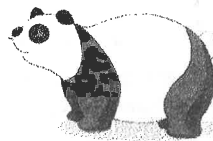
(泰阜カルメル会訳・編)

3匹の仲良し動物

私の机の書棚の上に、3匹の動物の縫いぐるみが仲良く並んで、机上で仕事をする私をいつも見ていてくれます。いえ仕事だけではなく、彼らは私の寝起き、掃除など、すべての生活を見つめているのです。一体何とと思っているのでしょうか……その3匹は誰かと言いますと、① 熊は、(右端、ただの私の名前の象徴だけでなく、キッチンとお坐りをし、両手を合わせ、何と目を閉じてお祈りをしているのです)なる程。私の祈り不足を教えてくれているのでしょうかネ。② 子犬は(真ん中)、両手両足を前後に伸ばし寝そべっています。(この姿勢は犬がリラックスしている時とか、安心してある時によくする姿勢です)目前に起こる現実を可愛い目で見つめています。“シスター、今何やってんの？ずいぶん忙しそうじゃない？もう少し余裕をもってした方がズーッと能率が上がるし、気持ちもキューツとならないで済むよ”と言っているようです。私が彼を真ん中に飾った理由は、その「あどけなさ、安心しきった柔軟性のある表情と態度、平和」がとても気に入ったからです。

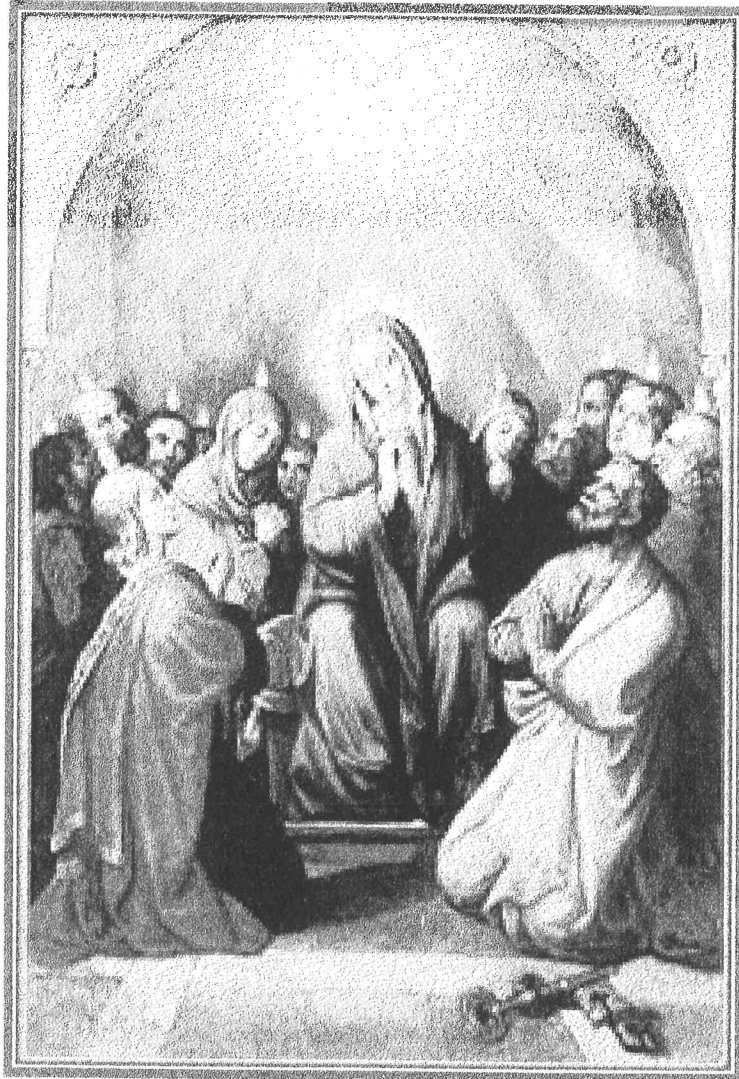
③ ウサギは(左端)、お行儀よくピンと両足で立っています。まるで直立不動の真面目人間みたいで、私も時々反省させられます。その昔、「ウサギとカメ」の競争では失敗したでしょうけれど、ウサギ族に反省があったのか、このウサギはそうではなく「仕事はテキパキとこなした方がいいよ」と言わんばかりに、直立不動の姿勢で正面をキュンとみつめているのです。

この3匹の動物の存在については、人様から頂いたり、たまたま買ったりしたものなのですが、机の上の書棚からいつも私を見下ろし、変わらぬ顔で語りかけてくれるので、今では私の心の友達であり、平和の君であり、無言のうちに反省させてくれる可愛い仲良し動物となってしまいました。ほんとうに可愛いですね。



お告げのフランシスコ姉妹会

S r. 熊田 照子



5月23日(日)
聖霊降臨の主日

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、
突然、激しい風が吹いてくるような音が天から聞こえ、
彼らが座っていた家中に響いた…」

(使徒言行録 2・1～2)

家の近くに里山のような森林公園があります。

公園内には背の高い樹木の山道があり、竹林があり、又展望の開けた広場がありと趣向豊かで、四季折々味わいの深さは格別であり、一万歩ウォーキングを兼ねて度々散策に出かけます。先だっても明るい日差しに誘われて出向きました。

ついこの前までは透き徹るような凜とした冷気の中にすべてを削ぎ落とした冬の梢がまっすぐにひたむきに天を指していて、私はその風景をこよなく好んでいましたが、いつの間にか風景は霞むように煙るように柔らいで、梢同士はさやさやと密になって、降り注ぐ温かな日の中に生き生きと軽やかです。

一本一本の立木も若やいで勢いを現し、道端の草花もそれぞれにほころびを見せ、時折耳に届く鳥の声も歌うがごとくで、皆出番を告げられたかのようないそいそとした晴れやかな風情が満ちていました。

一時間あまりを気ままに歩き、いつものコースである心地よい広場まできて一休みすることにしました。

円形劇場のような広場で、腰をかける台が階段状に囲んでいて、三々五々と人々が休憩したり談笑したりしています。広場には小さな子どもが走り小さな犬も走りと和やかで長閑でした。小さな犬は可愛いギンガムチェックの服を着ていました。何と云う種類なのかわかりませんが茶色の毛糸玉のような小犬で、キャンキャンと声をあげながらくると踊るように廻っています。よく見ると飼い主が小さなボールを投げて、小犬はそれをめがけて走りボールをくわえて再び飼い主のところへと駆け戻る、ということを繰り返していたのです。ボールも小犬も丸く全力疾走でした。

可愛く面白くにこにこ顔で眺めていたのですが、何と云う事でしょう 突如小犬はボールをくわえるところをめがけて突進してきて私の足下へボールを落とし、小さな顔をまっすぐに上げて私をひたと見つめています。

え?! 私?! 私が投げるの?!

ボールを拾い上げるとそれはスポンジ製の緑色のボールで、びしょびしょに濡れていました。わあっと一瞬怯みましたが私は思い切り遠くへ投げました

小犬は自身がボールになったかのように転がってダッシュして追いかけて、ボールをくわえると何とまた私のところへと運んできたのです。

本当にどうしたことでしょう。それを三回、四回、とくり返しました。飼い主はいささか所在ない感じで「犬 飼ってるんですかあ」と遠くから声を

かけます。「いえ 飼ったことないですう」と答えながら飼い主の方角へボールを投げました。

小犬は走り、飼い主に抱き上げられました。 飼い主の腕の中でしきりにこちらを見ていましたが、私にはその顔がにこにここと笑っているように見えました。

正しく降って湧いた春の椿事ではありました。

無邪気な純真な楽しさを思う存分貰ってしまいました。

私は魔法瓶から熱いコーヒーをカップに注ぎ、一片のチョコレートをかじりながら、ああ、春きにけらしー と空を仰ぎ深呼吸して目を閉じました。

無邪気な純真な楽しさは、静かに心を動かしつつ全身に茫茫と広がっていくようでした。

思いもかけなかった不意打ちのもの、一方的に向こうから訪れたもの、出会いとかめぐり合いというよりは、有無を言わず飛びかかるようにして全身を覆ってしまうもの、邂逅、遭遇、・・・ こちらの意志に関わりなく、まして勲しなどではなく・・・ ふと、心の奥底から熱く慕わしく浮かんでくるものがありました。 ダマスコ途上のサウロのこと、 摺み合い取っ組み合うヤコブのこと。

人生が私と私以外のものとの邂逅で成されるのなら、喜びも悲しみもありとあらゆる一切が、今日のようにしてきつと向こうから訪れる恵みであること。

その全てを受けとり、生きる私を瞬時瞬時 主に差し出すこと即ち委ねること。 受けとること 委ねること ここに全てが始まり全てが終わっていくのだということ。

春光のなかで、私は果てのない大らかさに抱きとられ、暫し深々と安んじました。 <わが魂は乳離れしたみどりごのように安らかです>

ギンガムチェックの小犬はいつか遠くへ去ったようでした。

いのちの言葉 4月

わたしは復活であり、命である。

(ヨハネ 11・25)

これは、ベタニアでラザロが亡くなり、その死後四日目にイエスによってラザロが復活した時、イエスが言われた言葉です。

ラザロには、マルタとマリアという二人の姉妹がいました。

マルタはイエスがベタニアに来られると聞き、すぐにイエスを迎えに行きました。そして「主よ、あなたがここにいてくださいましたら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに」と言いました。これに答えてイエスが、「あなたの兄弟は復活する」と言われると、マルタは「終わりの日に復活することは存じております」と答えました。これに対しイエスは、次のようにはっきりと言われました。「私は復活であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる。生きていて私を信じる者はだれも、決して死ぬことはない」と。

わたしは復活であり、命である。

イエスはこの言葉を通して、ご自分が人間にとってどのような方であるかを示されました。つまりイエスは、死ぬことのない「命」という、人が望みうる最も貴重なものを持っておられる方なのです。

ヨハネ福音書を読んでみると、次のようなイエスの言葉も見られます。「父は、御自身の内に命を持っておられるように、子にも自分の内に命を持つようにしてくださった。」(ヨハネ五・二十六)

このようにイエスは、ご自分の内に「命」を持っておられるので、他の人にもそれを与えることがおできになります。

わたしは復活であり、命である。

マルタも「(ラザロが) 終わりの日に復活することは存じております」と言ったのですから、世の終わりにおける復活は信じていたわけです。

しかしイエスは、これに対して、「わたしは復活であり、命である」という素晴らしい言葉を語られ、死者の復活のために終わりの日を待つ必要はないことを、マルタに示されました。

すべてのキリスト者にとって、今すでにイエスは、「命」そのものでおられます。それは、言葉では説明することのできない神聖な「命」、決して死を迎えることのない永遠の「命」です。

そして、このイエスが、私たちキリスト者の内におられるなら、私たちも死ぬことはないでしょう。キリスト者の内にあるこの「命」は、復活のキリストの命にあずかるものであり、人間が普通に考える命とは全く異なるものです。

私たちがすでにいただいている、この素晴らしい「命」は、終わりの日に、私たちの魂も体もすべてが復活にあずかる時、満ち満ちた形で現れるでしょう。

わたしは復活であり、命である。

このイエスの言葉は、むしろ肉体の死を否定するものではありません。私たちが、肉体の死によって、「本物の命」を失うわけではないことを示しておられるのです。死は、誰にとっても、本当に特別で強烈な出来事であり、恐れを感じさせるものかもしれませんが、しかし死によって、私たちの人生が意味を失うわけではありません。

死は不条理なことではなく、人生の挫折でも

終わりでもないのです。私たちにとって、肉体の死は、もはや真の意味での「死」ではなくなっただけです。

わたしは復活であり、命である。

では、死ぬことのないこの「命」は、いつ、私たちの内に芽生えたのでしょうか。

それは洗礼の時です。死ぬはずの者であった私たちは、洗礼を受けた時、キリストによって、死ぬことのない「命」を受けました。実際、洗礼の時に私たちが受ける聖霊は、イエスを復活させられたお方にほかなりません。

洗礼の秘跡を受けるためには、信仰が必要です。イエスも、ラザロを復活させられた時、マルタに次のように言われました。「わたしを信じる者は、死んでも生きる…このことを信じるか」(ヨハネ十一・二十五～二十六)と。

ですから「信じる」ということは、とても真剣で重要な行為です。それは、イエスが告げられた真理をただ単に受け入れるだけでなく、すべてをかけて、それを自分のものにするからです。

私たちがこの命を得るためには、イエスに答えること、つまり、彼のみ言葉、彼の掟を心から受け入れて生きることが必要です。イエスは言われました。「わたしの言葉を守るなら、その人は決して死ぬことがない」(ヨハネ八・五十一)と。そしてイエスの教えは、「愛」のうちに要約されます。

私たちは、このような「命」を持っているのです。これを喜びとしないではいられないでしょうか。

わたしは復活であり、命である。

今、私たちは、復活祭を迎える準備の時を過ごしています。いつもやり直しながら、私たちが自分に「死ぬ」ことができるよう、この時期には、一層力を尽くしましょう。それは、復活のキリストが今からすでに、私たちの内に生きてくださるようになるためです。

キアラ・ルービック

体験談

私は保育園で働いています。ある日、一人の子が、自分の思い通りにいかなかったことをひどく怒って、物を投げつけ、トイレに逃げて行きました。あまりのひどい態度に、すぐに追いかけて注意しようかと思ったのですが、「今は何か言っても逆効果だ。もう少し待とう」という声を心に感じました。腹立たしい思いを脇に置いて、「本当にあの子のためになるよう、いい形がとれますように」と祈りました。しばらくすると、その子が私のところに来て、「〇〇ちゃんがトイレに来たから、手を洗うのを助けてあげたんだよ」と嬉しそうに言ってきました。私はその子を膝にのせ、目と目を合わせて、「助けてくれて、本当にありがとう。いいことをしたね!…ところで、さっきはどうしてあんなに怒っちゃったの?」とききました。その子が自分なりの理由を話すのを聞いてから、私は「気持ちわかるけど、ただ怒っても、他の子には伝わらないよ。この次は『こうしてほしい』って、ちゃんとみんなに言おうね」と話しました。私の言葉がその子の心にスーッと入っていくのを感じながら、私が「自分自身に死ぬ」時、イエス様が働いてくださるのを感じました。(T)

フォコラーレの創業者キアラ・ルービックが、2008年3月に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げます。今月の言葉は、1999年3月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：[フォコラーレ](#)で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

聖母像映れる水に花筏

散るさくら空へ花神の御手のまま

吟行句会手帖より

カルメル会の企画案内



上野毛靈性センター '10年4月~'11年3月黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 一泊聖書深読 新井延和神父

2010年 (毎回金曜日 夕食~土曜日16時)

- ② 6月18日~19日
- ③ 9月10日~11日
- ④ 11月12日~13日

①終了致しました。

2. 奉獻生活者のための黙想会

2010年

- | | | |
|---|--------------------------|--------|
| A | 7月20日(火) 夕食~7月29日(木) 朝 | 松田浩一神父 |
| B | 7月31日(土) 夕食~8月 9日(月) 朝 | 福田正範神父 |
| C | 8月11日(水) 夕食~8月20日(水) 朝 | 中川博道神父 |
| D | 11月 2日(火) 夕食~11月11日(木) 朝 | 福田正範神父 |
| E | 12月27日(土) 夕食~ 1月 5日(水) 朝 | 中川博道神父 |

3. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時~16時)

2010年間共通テーマ 《道》

- | | | |
|--------|------------------|---------|
| 6月17日 | 主よ、あなたの道を教えてください | 福田正範神父 |
| 9月16日 | 真福八端を生きるイエスの道 | 今泉 健神父 |
| 11月18日 | 神の国への道 | ベルナルド神父 |
| 1月20日 | 荒野をゆく道 | 中川博道神父 |

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日 10時～16時)

2010年度

5月21日	三位一体のエリザベット	福田正範神父
7月 9日	カルメル山の聖母	福田正範神父
10月29日	アピラの聖テレジア	ベルナルド神父
12月17日	リジューの聖テレジア	今泉 健神父
2011/ 2月25日	十字架の聖ヨハネ	中川博道神父

5. 「社会人のための心の休息」一日常のキリスト教靈性を求めて一

(毎回金曜日 20時～ 土曜日 15時)新しい企画

松田浩一神父

2010年度

② 5月14日(金)～15日(土)

③ 6月25日(金)～26日(土)

④ 7月 9日(金)～10日(土)

※①終了。

尚、この企画は社会人(働いている人)の靈的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、靈的同伴・靈的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

6. 青年黙想会 (男女) 中川博道神父・神学生

5月22日(土) 16時 ～23日(日) 16時

「イエスと一緒に生きるにはどうしたらよいのですか？」(5月テーマ)

11月20日(土) 16時 ～23日(火) 14時

7. 召命黙想会 (男女) 中川博道神父・神学生

10月9日(土) 16時 ～11日(月) 16時

8.祭日のミサに与かるために

【クリスマス】・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2010 12月24日(金)～25日(土)《講話なし、夕食なし》

9.特別黙想会 伊従信子NDV テーマ:「私は神を見たい」

5月28日(金) 20時～30日(日) 16時(28日は夕食を済ませてご参加ください)
10月15日(金) 20時～17日(日) 16時(15日は夕食を済ませてご参加ください)

10.待降節黙想会

2010/12月 3日(金) 夕食なし～5日(日) 昼まで 指導:カルメル会士



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2010年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

5月18日	5月21日
6月15日	6月18日
7月6日	7月2日
10月26日	10月29日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

聖書講座

「キリストとの親しさ」

—出会いの神学—

キリストと出会った人々の姿を 聖書をとおして辿ります

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2010年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

4月27日	4月30日
6月1日	6月4日
10月5日	10月15日
12月7日	12月10日

<お問い合わせ : carmel-reisei@hotmail.co.jp>



「キリスト教の基本を学ぶ」

— 洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に —
 対象：どなたでもご参加ください

指導：中川 博道 (カルメル修道会)

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

2010年 予定表

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

いずれも金曜日

	月日	テーマ	聖書箇所
1	5月14日	「聖書への親しみを持つことから」 天地創造の物語を読む	創世記1章1節~2章3節
2	5月28日	「あなたは誰？」(1) 聖書の人間へのまなざし	創世記2章3節b~2章25節
3	6月11日	「あなたは誰？」(2) 聖書の人間へのまなざし	創世記2章3節b~2章25節
4	6月25日	「人間の問題性」(1) 人間存在の根源的なずれとゆがみ	創世記3章
5	7月9日	「人間の問題性」(2) 兄弟性のゆがみ「カインとアベル」	創世記4章
6	7月23日	「信仰の祖 アブラハム」 信仰を生きるとは	創世記12章
7	9月17日	「人間の問題性からの脱出」 聖書のライトモチーフとしての「脱出」というテーマ	出エジプト記1章~3章
8	10月8日	「人間の問題性に関わる神の本質」 神の名前	出エジプト記3章14節をめぐって
9	10月22日	「イエス・キリストに出会う」 最初にイエスに会った人々	ヨハネ1章35節~42節
10	11月5日	「福音が語るイエス・キリスト」 天地人への関わりを生きるキリスト	
11	11月19日	「イエス・キリストの自己理解」 イエスの名の由来 イエスの残されたものとおして	マルコ10章45節
12	12月3日	「キリストに近づく」 — 洗礼と永遠の命 —	ヨハネ3章1節~21節
13	12月17日	「教会；キリストに呼び集められた人々の集まり」(1) キリスト者の原型としてのマリア	ルカ1章26節~38節

<お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

金曜黙想会・カルメルの聖人

「三位一体のエリザベット」

神はわたしのうちに、わたしは神のうちに

日時：2010年5月21日（金）

10:00~16:00

指導：福田 正範師（カルメル会司祭）

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

会費：¥3500（昼食付）



木曜黙想会

テーマ： 道

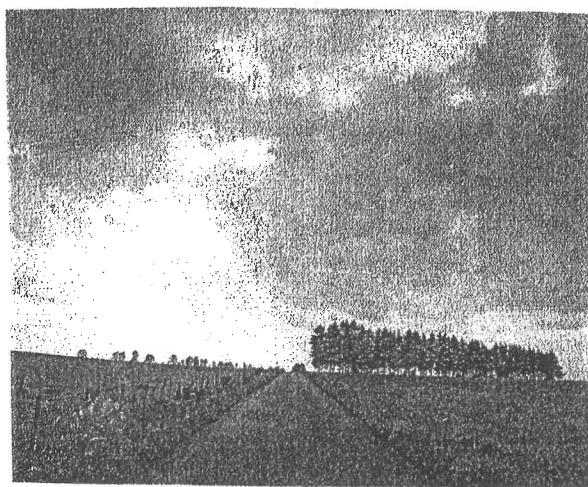
主よ、あなたの道を教えてください

日時：2010年6月17日（木） 10:00～16:00

指導：福田 正範師（カルメル会司祭）

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

会費：¥3500（昼食付）



お問合せ：TEL.03-5706-7355

お申込み：メール、FAX.またはハガキで

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

FAX: 03-3704-1764

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

『社会人(働いている人)のための心の休息』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてコーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- ④ 5月14日(金)～15日(土)
- ⑤ 6月24日(金)～26日(土)
- ⑥ 7月 9日(金)～10日(土)

※①～③終了

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 5,000円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
 カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 03-5706-7355、Fax 03-3704-1764
 E-Mail:mokusou@carmel-monastery.jp

青年黙想会



イエスと一緒に生きるにはどうしたらよいのですか？

- 日時 : 5月22日(土) 16時 ~ 23日(日) 16時
場所 : カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
対象 : 高校生以上の青年男女(35才まで) 定員:20名
指導 : 中川博道神父・神学生
費用 : 一般 5,500円 学生 4,000円
締切 : 5月14日(金) <必着>

お申し込みは、住所・氏名・年齢・電話番号を明記し、ハガキ・FAX・Eメールで下記まで。

158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院(黙想) 青年黙想会係
☎03(5706)7355 Fax 03(3704)1764
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2010年 6月 18日（金）18時～19日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

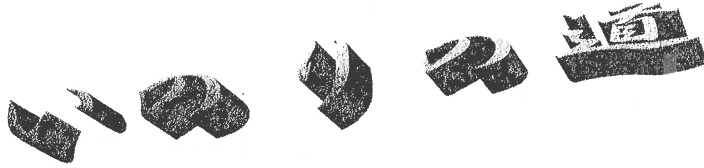
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

神と親しく生きる



2010年5月28日（金）20時～30日（日）15時

日々のあらゆるわずらわしさから離れ、

しばらく神のみ前に立ち止ってみませんか？

ゆきなれた路の

なつかしく

耐えられぬように

わたしの いのりのみちを

つくりたい

— 八木重吉 —



- 指 導： 伊従 信子師 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
 - 持参品： 新約聖書（黙想の家にも備えあります）
『神と親しく生きる いのりの道』マリー・エウジェンヌ ocd 著、聖母文庫
（黙想の家で購入できます）
筆記用具、バジヤマ、洗面用具
（タオル、バスタオル、石鹸、シャンプーあります）
 - 参加費： ￥12000
 - 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158 - 0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-5706-7355
- * 申し込み方法 FAX. 03-3704-1764または、ハガキにてお願い致します。
* お問合せTEL. 03-5706-7355

‘10年4月～ ‘10年12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

1. 聖書深読

一日 (午前10時から午後4時)

6月26日 (土)	新井延和神父
10月30日 (土)	九里 彰神父
12月11日 (土)	新井延和神父

2. 一般のための黙想

一泊二日 (午後5時～午後4時)

5月29日 (土)～30日 (日)	互いに愛し合うこと	新井延和神父
7月10日 (土)～11日 (日)	マリア 喜びの人	渡辺幹夫神父
9月25日 (土)～26日 (日)	幼子の平和	九里 彰神父
11月20日 (土)～21日 (日)	神の国が始まる	新井延和神父

六泊七日 (午後5時～午前9時) ※修道者も可能

4月29日 (木)～5月5日 (水)

復活した主との出会い 九里 彰神父

3. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

5月12日 (水)	生きておられる主	九里 彰神父
6月 9日 (水)	司祭と聖体	渡辺幹夫神父
7月21日 (水)	カルメル山の聖母マリア	新井延和神父
9月15日 (水)	福音と共にキリストに従う道	Sr. ポーリン
10月13日 (水)	アピラの聖テレサ	アロイジオ神父
11月10日 (水)	三位一体のエリザベット	伊従信子師
12月15日 (水)	御言葉は人となった	九里 彰神父

4.待降節黙想（午後5時～午後4時）

2010年12月 4日（土）～12月5日（日）

渡辺幹夫神父

5.聖テレーズの黙想（午後5時～午後4時）

9月30日（木）～10月 1日（金）

伊従信子師

6.召命黙想会（午後5時～午後4時） 対象:40才以下の青年男女

5月 8日（土）～5月 9日（日）

収穫は多いが働き手は少ない

九里 彰神父

7.奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

2010年度

8月 2日（月）～8月11日（水）

新井延和神父

8月18日（水）～8月27日（金）

九里 彰神父

10月12日（火）～10月21日（木）

九里 彰神父

12月27日（月）～ 1月 5日（水）

新井延和神父

・ 9.青年のための黙想（午後4時～午後5時） 男女性のため

11月 6日（土）～11月7日（日）

今泉 健神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

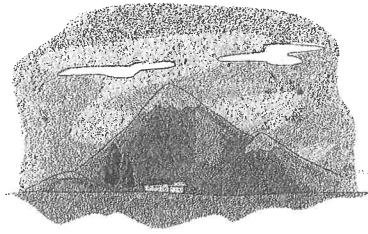
宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

e-mail carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp



「カルメルの靈性に学ぶ」

～十字架の聖ヨハネの靈性～

1) テキスト：『カルメル山登攀』（ドン・ポスコ社）
（いつからでもどうぞ、4月は第2部8章から）

2) 日時：毎月一回

了 4月24日（土） 14：00～15：30

5月22日（土） 14：00～15：30

6月26日（金） 14：00～15：30

3) 講師：^{くのり}九里 彰神父（カルメル会）

4) 場所：カルメル会宇治修道院
信徒会館集会室

《宇治カルメル靈性センター》

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

Tel. 0774 (32) 7456 Fax0774 (32) 7457

カルメル会宇治修道院の祭日ミサと講話の御案内

1 イエスの御心の祭日 (6月11日〈金〉)

時間：午前10時～11時半。

(1) 午前10時よりミサ。

(2) 午前10時45分より〈イエスの御心〉の講話。

場所：カルメル会宇治修道院 (修道院聖堂)。

2 カルメル山の聖母の祭日 (7月16日〈水〉)

時間：午前10時～12時。

(1) 午前10時よりミサ。

(2) 午前10:45より〈カルメル山の聖母〉の講話。

(3) 望む方は、スカプラリオの着衣式を行ないます。

場所：カルメル会宇治修道院 (修道院聖堂)。

*いずれのミサ司式は松田浩一神父 (カルメル会士) です。

また、費用は献金とします。

【所在地・連絡先】 〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456 FAX 0774-32-7457

【交通機関】 ① JR 奈良線 六地藏駅下車 徒歩 15分

タクシー乗り場あり。

② 京阪六地藏駅 タクシー 7分

③ 京都市営地下鉄 六地藏駅 徒歩 15分

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一日静修～（2010）

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかかでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『混沌の時代を生きる道筋を探して』としました。

このテーマを通して、聖書のみ言葉やそれを生きるカルメルの聖人たちの言葉を通して、キリストの光を受け、混沌の時代を生きる私たちが、生きるための道筋を探していくことができますように・・・

第5回	5月22日（土）	聖テレジアの示した道	松田浩一神父（上野毛修道院）
第6回	6月26日（土）	真福八端を生きる道	今泉健神父（上野毛修道院）
第7回	7月19日（月） 祝日	カルメル山登攀の道 ～十字架の聖ヨハネの示した道～	九里彰神父（宇治修道院）
第8回	9月18日（土）	貞潔で、貧しく従順な方イエスに従う歩み	Sr.パウリナ （宣教カルメル修院）
第9回	10月30日（土）	小さき道、幼いイエスの聖テレジア	Sr.ベアトリス （宣教カルメル修院）
第10回	11月23日（火） 祝日	主が教えてくださった新しい旋の道 『私が愛したように』	三上和久神父（三馬修道院）

※第1回～4回終了

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話【1】
～（赦しの秘跡または面接）
 - 12:15～ 昼食
～（赦しの秘跡または面接）
 - 13:30～ 講話【2】
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、（所属教会）を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825
 一日静修係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子
 TEL・FAX 052-701-3685

2010年度名古屋聖書深読会

第1回 5月1日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

第2回 10月2日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ¥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX052-671-1825

または

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

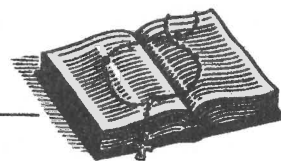
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

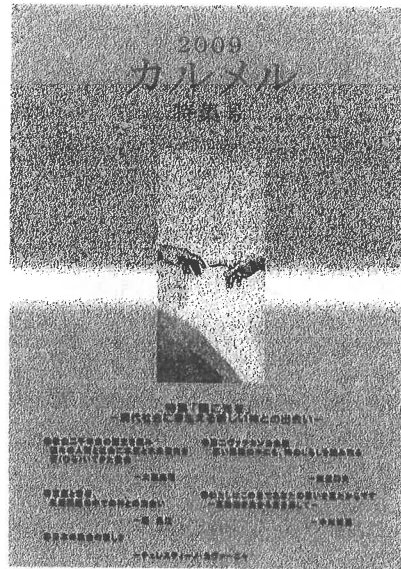
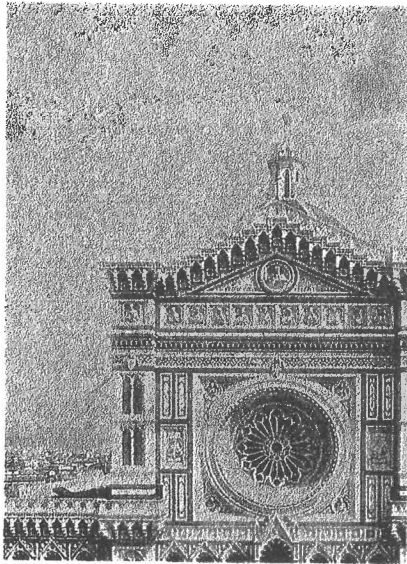
所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

「観想」を読むー



雑誌「カルメル」NO336 (2010年春号)「今日の靈性」 新発売

馬屋の靈性 (5) - 「生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」 I …高橋重幸

マリアの旅 (7)

…中川博道

ある聖人の子供の祈り

…ペトロ・アロイジオ

「どこにお隠れになったのですか」(3)

ー十字架の聖ヨハネに見る靈の旅路

…九里 彰

聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (2)

…マリー・エウジェンヌ

編・訳 伊従信子

アビラの聖テレジアの靈性における自由 (1)

…ベアトリス・デクンハ

「小さい道」の巡礼者 (8)

テレーズの修練者ー三位一体のマリー

…中山眞里

脳は宇宙ほど広く深い？

…森 みさ

愛の断章 (15)

…奥村一郎

雑誌「カルメル」NO335 (2009年冬号)「今日の靈性」

- 馬屋の靈性(4) —イエスを拒む者と受け入れる者 …高橋重幸
マリアの旅(6) …中川博道
今日の歌(6) …ペトロ・アロイジオ
「どこにお隠れになったのですか」(2)
—十字架の聖ヨハネに見る靈の旅路 …九里 彰
- エリザベットの「魂のこだま」、ギット(12)
—「生きているのはもはやわたしではない わたしのうちにキリストが生きておられる」
…伊従信子
- 「小さい道」の巡礼者(7)
—テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里
- 聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて …マリー・エウジェンヌ
編・訳 伊従信子
- 「ヨハネの黙示録」をどう読むか
—シスター今道に導かれて …谷口正子
- 愛の断章(14) …奥村一郎

雑誌「カルメル」 2009年特集号 発売中
「闇に光を」—現代社会に芽生える新しい神との出会い—

購読のご案内

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等)できます。定価は、一冊460円です。

- 送付希望の方は、600円【内訳 460円(+送料140円)】を下記へお振込ください。
- また、まとめて御購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【 $460 \times 5 = 2300$ 円】、送料分【700円】)として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356)

新刊紹介



●イエスの聖テレサ—霊的な人々の母（新刊）

聖テレサを知るための『入門書』。本書は、世界的な聖テレサの研究家である著者が描いた聖テレサの生涯、人となり、著作や思想を年代順に様々な角度から、きわめて総合的にそして興味深く語っている。祈りを通して、神と出会い、本当の自己を知るに至った聖テレサの生涯は、多くの人に各自の心の内奥の真の「自己認識」へと至るためのヒントを与えてくれる。聖テレサを知るための、またとない好著である。

定価：1,155 円（税込み）

著者：トマス・アルバレス

訳者：松田浩一 神父（カルメル修道会司祭）

判型：B6 判並製

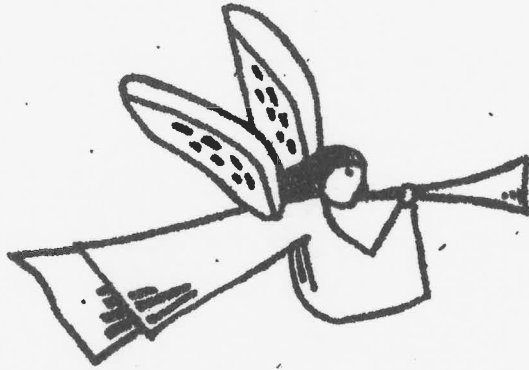
ページ数：188 ページ

ISBN：978-4-8056-0473-1

発行：サンパウロ

カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等でご購入できます。

諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

神の恵みを生きる（2010）

ノートルダム教育修道女会

Congrégation・ド・ノートルダム

※ お知らせ

2009年・10号より、諸所の企画記事を
編集係りで集約して打ち込みました。

記載には注意を期していますが、詳細は、
念のため、各問い合わせ先にご照会ください。

また、「投稿募集」ページも、隔月程度の
掲載となります。どうぞご了承ください。

よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

内観黙想の予定表

2010年予定

- O1 5/13(木)2時～5/19(水)2時
沖繩・伊江島・土の宿(6泊7日)
- K3 6/11(金)2時～6/17(木)2時
東京・小金井・聖霊会(6泊7日)
- N2 6/22(火)2時～6/28(月)2時
滋賀・唐崎・ノートルダム(6泊7日)
- Y2 7/15(木)2時～7/21(水)2時
神戸・須磨・ヨハネ(6泊7日)
- H1 7/25(日)2時～7/31(土)2時
北海道・問合せ・聖ピアンネ会
(6泊7日)
- N3 8/12(木)2時～8/18(水)2時
滋賀・唐崎・ノートルダム(6泊7日)
- S1 8/23(月)2時～8/29(日)2時
長野・大鹿村・草々庵(6泊7日)

先の予定表と若干変わっていますので、
開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西
会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い
合わせてください。

電話では取り次いでおりません。申し込みは
会場予約準備がありますので、10日前迄に
完了をお願いします。

◎572-0001

大阪府寝屋川市成田東町3-27
「心のいほり 内観瞑想センター」
藤原神父 FAX 072-802-5026
<http://www.com-unity.co.jp/naikan>
(ホームページ・アドレス)

予約に決まった後に、会場までの詳しい
地図などの書類をお送りします。

お知らせ

2009年10月号より、掲載スペースの関係上、
諸所の黙想企画記事を、編集部で集約して
打ち込みました。
各御担当者の皆様どうぞご了承ください。

センターニュース編集係

真命山 2010年祈りの集いのご案内

通年テーマ:教父の祈りを学ぶ

祈りの集い(毎回午前10時~午後2時半)

5月13日	聖ヒエロニュムス	フランコ神父
6月10日	聖アウグスチヌス	ダニエレ神父
7月 8日	聖アフラハト	Sr.マリア
8月	お休み	
9月9日	聖エフラエム	Sr.マリア
10月14日	聖ベネディクトゥス	フランコ神父
11月11日	大聖グレゴリウス	フランコ神父
12月 9日	ロマノ メロドス	Sr.マリア

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

(真命山院長)

ダニエレ サルティ・サルトリ神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流

センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も
歓迎いたします。

(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
 どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
 9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
 19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
 思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見よ。
 5月8日、15日、22日、29日、6月12日、
 19日、7月3日、10日、24日、9月4日

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分
 木曜日 18時～20時30分
 上智大学内 Kulturlハイム1階左の
 部屋。但し、10月18日、同21日、12月
 27日、同30日、祝日休み。3回座り、間に講話があります。どなたでも。初心者も歓迎。遅刻、不定期の参加も可。

●坐禅接心

(秋川神冥窟) 一泊2, 400円程度
 6月25日(金)20時30分～27日(日)10時
 8月7日(土)20時30分～14日(土)10時
 9月18日(土)12時30分～20日(月)10時
 10月29日(金)20時30分～11月3日(水)10時
 (上石神井)
 2011年2月5日(土)8時30分～6日(日)15時30分
5, 900円程度
 (宝塚)7月31日(土)17時30分～8月6日(金)
 13時

●ミサ 水曜日 17時10分～18時
 上智大学内 Kulturlハイム1階

右小聖堂どなたでも。(但し、8月全休、
 10月20日、12月29日、祝日休)

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時
 上智大学内SJハウス第5会議室
 黙想、講話、ミサがあります。
 5月8日、6月12日、7月10日、
 8月7日、9月4日、10月9日
 ロザリオの祈り 同日16時10分～50分
 Kulturlハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
 聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
 (但し、祝日、8月10日、10月19日、12月28日は
 休。8月24日は Kulturlハイム聖堂)

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時45分～12時 聖イグナチオ教会
 マリア聖堂 但し、8月3日、祝日休。

【水曜日】 18時～18時30分

上智大学内 Kulturlハイム1階右小聖堂。
 どなたでも。但し、8月全休、祝日休。

【通う霊燥】 8月21日(土)～ 8月29日(日)、18時～20
 時45分 上智大学内 Kulturlハイム聖堂

●黙想会

6月5日(土)10時～6日(日)15時、9月11日(土)10時～12日(日)15時、
 上石神井。一泊5900円程度。

●アガペ会

下記の日、説明会(13時30分)と
 集い、ミサ(14時～18時)、上智大学
 内SJハウス第5会議室 6月20日
 (日)、10月16日(土)

●クリスマス会・ミサ 12月18日(土)16時30分
 聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時岐部ホール
 4階 要申込。ミサ 12月23日(水)14時～
 上智大学内 Kulturlハイム聖堂(80人限定)

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_risenhubc/index.html/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座（新年度）

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座2010年～2011年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

(6月1日以降のテーマ【神】)

4/30 休 み

5/ 7 神認識の道
—理性と経験を通して

5/14 創造された世界
—人間存在の根拠と
自然の意味

5/21 歴史と信仰
—神と人間との出会い

5/28 新約聖書の神理解
—主なる父

6/ 4 祈りによる神理解
—神の偉大さと近さ

6/ 5～6 黙想会

6/11 救い主の役割
—人類の待望

6/ 1 無限への問い—理性による神理解

6/ 5～6 黙想会

6/ 15 世界の根源
—創造的自由・進化・摂理

6/29 人生のうちに働く超越
—神経験の多様な形

7/ 6 「私は在る」
—旧約における神の自己啓示

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座2010年～2011年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

電話 03-3238-5124{直通}

-5111{伝言}

Fax 03-3238-5056

各回のテーマ

(5月18日まで、テーマは【人間】)

5/18 救いの歴史
—時間における意義

上述日程等、変更の可能性がありま
す。詳細等は、下記、リーゼンフーバー
神父様のホームページでご確認
ください。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレスhttp://www.jesuits.or.jp/~j_risenhube/index.html

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります。

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ

177-0044

練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)・3594・2247

Fax(03)・3594・2254

E-mail notredamedevie.japan@gmail.com

5月22日(土)

※6月19日(土) (次々回の予定)

講話 伊従信子・片山はるひ
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

神の恵みを生きる(2010年)

日時: 5月15日(土)15:00 ~16日(日)15:00まで
場所: ノートルダム唐崎修道院(JR京都駅から30分)
指導: 山内 十束 神父(御受難会)
対象: 独身女性信徒
費用: 2,000円
締切: 5月9日(日)までに

申し込み・問合せ

ノートルダム教育修道女会 Sr.桂川

520-0106 滋賀県大津市唐崎1丁目3-1

Tel 077-579-2884

Fax 077-579-3804

E-メール karainorind92@mbe.nifty.com



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎所在地

〒520-0106

滋賀県大津市唐崎1丁目3-1

Tel 077-579-7580

Fax 077-579-3804

E-メール karainorind92@mbe.nifty.com

◎交通

JR京都駅から湖西線で三つ目

「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩13分

◎日程

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ④ 6月21日(月)～6月29日(火)
- ⑤ 8月11日(水)～8月19日(木)
- ⑥ 9月3日(金)～9月11日(土)
- ⑦ 10月1日(金)～10月9日(土)
- ⑧ 11月2日(火)～11月10日(水)

※①～③終了

B. 祈りの体験:週末3日間

(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

2010年

- ⑧ 4月30日(金)～5月2日(日)
- ⑨ 5月14日(金)～5月16日(日)
- ⑩ 5月21日(金)～5月23日(日)
- ⑪ 6月25日(金)～6月27日(日)
- ⑫ 7月9日(金)～7月11日(日)
- ⑬ 8月13日(金)～8月15日(日)
- ⑭ 9月3日(金)～9月5日(日)
- ⑮ 9月17日(金)～9月19日(日)
- ⑯ 10月1日(金)～10月3日(日)
- ⑰ 10月22日(金)～10月24日(日)
- ⑱ 11月5日(金)～11月7日(日)

⑲ 11月26日(金)～11月28日(日)

⑳ 12月10日(金)～12月12日(日)

(他の黙想会が行われている場合があります。)

※①～⑦終了。

C. 講話 黙想(奉献生活者のため)

(21) 5月27日(木)～6月3日(木)

植栗 彌師(イエズス会)

◎対象: 信徒、修道者、司祭、
洗礼を受けていない方、
どなたでも参加できます。

◎霊的同伴者:

菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会)

松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)

その他 若干名

◎申込み:

1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望
日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで
「黙想係」松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、
その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んで
ください。先着順11名です。

その他:

◎受付(チェック・イン): いずれの場合も、
初日の15時から16時45分まで。

◎問い合わせ: 電話 または、E-メールを
御利用下さい。

その他

グループでの黙想会や研修会のために
唐崎修道院をご利用なさりたい場合は
連絡下さい。

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

テーマ: 「聖霊きてください」

指 導: 幸田 和生 司教様(東京教区補佐司教)

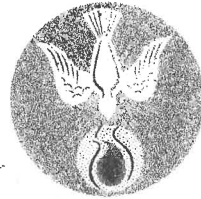
日 時: 5月22日(土) 10:00~16:00
受 付 9:30~

場 所: コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院
〒182-0034 調布市下石原3-55-1

対 象: 男女・年齢を問わず、どなたでもどうぞ。

会 費: 2,000円(お弁当代を含む)

申込み: 5月15日(土)まで。
電話 0424-82-2012
FAX 0424-82-2163



定 員: 80名まで受け付けます。

主 催: コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

※当修道院は、新宿より京王線で、調布駅下車。
南口から徒歩で20分。
タクシーで5分。
マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。

新刊紹介

●「テレーズを愛した人びと」

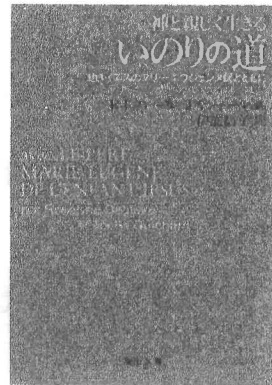
リジューの聖テレーズはカトリック教会で最も親しまれている聖人の一人。この書はテレーズが愛した人びとと、テレーズを愛した人びと11人が、どのように心の深みでテレーズと響き合っていたかを見つめながら、その11の愛の道を洞察しています。(聖母、十字架の聖ヨハネ、パウロ、三木露風、官沢賢治、マリー・エウジェンヌ【ocd】、マザー・テレサなど)、それぞれの独自の愛が心にのこる一冊の本。伊従信子著 ¥1400 円+税 女子パウロ会 214 ページ

テレーズを
愛した人びと



伊従信子
Shino Inoue

女子パウロ会



●「神と親しく生きる 祈りの道」

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに
本書で師はわたしたちみんなが呼ばれている聖性の道を示し、神との一致への道へわたしたちを導いてくれます。神を探し求める時、闇につつまれた道程を歩まねばなりません。祈りの道を歩み続けるために光を求める人々の具体的呼びかけにマリー・エウジェンヌ師は自分の体験の実りを本書で分かち合ってくれます。

神との関わりを探し求めている人たちへ

送るメッセージ

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失って
いないだろうか・・・ 真理、善、美、生きる意味。

R.ドグレール/J.ギシャール=著

伊従信子=訳 ¥525 聖母文庫 207 ページ

『靈性センターニュース』 郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



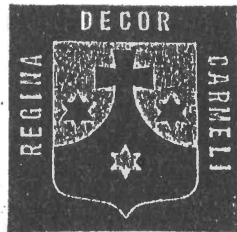
編集後記

5月は聖母の月であるが、古い文語の天使祝詞については、よくある笑い話を思い出す。これは、私もイエズス会の某神父から聞いたのであるが、小学校6年生頃まで、「めでたしせいちょう みちみてるマリア」の「みちみてるマリア」を「道見てるマリア」だと、ずっと思い込んでいたというのである。

この話を教会学校でシスターに話したら、小学生の女の子が書いたマリアさまの絵を見せてくれた。教会学校の時間に、皆にマリアさまの絵を描かせたそうであるが、その絵には一軒の家が描かれ、窓から女の人が顔をのぞかせている。マリアさまだそうで、窓から外の「道を見てる」ところだそうだ。思わず、笑ってしまったが、考えてみれば、「私は道、真理、命である」とおっしゃったイエスさまの言葉に忠実に従えば、道であるイエスさまをたえず見てることは、神学的にはまったく正しいと言える。

「道見てるマリアさま」にならい、道であるキリストを単純に絶えず見ていたいものである。

(P. 九里)



あなたにもできる

「靈性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「6月号」製本日 5月25日（火） 上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。靈性センター係

TEL 03・3704・2171